

## 共通教育センター

## 2017年度 活動報告

共通教育センター長 飯干 明

## 1. 共通教育のカリキュラム改革推進に向けて

2017年度は、2016年度よりスタートした共通教育の新カリキュラムについて現状を分析し、課題を把握しながら、新カリキュラムの充実を図るとともに、共通教育センターへの専任教員の配置を進めていくことが主な活動でした。いずれも、共通教育等企画室・センター企画会議合同会議で原案を検討し、カリキュラムや関係規則については共通教育センター運営委員会や共通教育委員会で審議をしました。

## 2. 共通教育等企画室会議、センター企画会議合同会議

共通教育等企画会議、センター企画会議合同会議は、共通教育に関する現状と課題を把握するとともに、2016年度からスタートした共通教育の新カリキュラムの充実に向け、カリキュラムの検討と関係規則や要項の整備等を中心に、学部の検討結果も踏まえながら共通教育センター運営委員会に上程する原案等を作成しました。また、共通教育センター専任教員の計画的な配置についても検討を行った結果、新規採用ではなく学内異動により2018年度の人員配置を行うことを決めました。

カリキュラムの検討については、①卒業要件単位数の再検討、②初年次教育科目の検討、③教養教育科目の検討、④地域人材育成プラットフォームの新規開設でした。そのなかで、卒業要件単位数の再検討については、卒業単位として初修外国語の必要性や基礎教育入門科目の必要性について、関係学部で再検討を依頼することにしました。また、初年次教育科目については検証を行うとともに、非常勤講師の依存率が高い異文化理解入門についてクラス数の見直しなどによる検討を行うこと、教養教育科目については非常勤講師の担当科目の精査と、自然科学分野の科目増について検討を行うことにしました。そして、地域人材育成プラットフォームについては、現行の2つのプログラムにグローバル人材育成プログラム（仮）を加えるなどして、2019年度までにプログラムを増やしていくこととしました。なお、カリキュラムに関する、これらの検討事項については、共通教育委員会で審議することにしました。

グローバル人材育成に関連して、本学では、2009年度から「鹿児島大学若手教員海外研修支援事業」を実施するなどして、次世代を担う若手教員の海外の教育研究機関等における研修を支援することにより、教育研究能力等の向上を図るとともに、教育研究の国際的通用性・共通性の向上に取り組んでいます。そして、グローバル人材の養成を推進するため、英語による授業に取り組んでいるところですが、今後、さらに、本学における英語による授業を増やし、グローバル教育を推進していくためには、若手教員の英語による授業運営能力を開発し、向上させていく必要があることから、今年度より、計画的に若手教員を海外の高等教育機関へ派遣し、英語による教育手法や科学英語に関する指導力を修得させる研修について検討を進めた結果、「鹿児島大学若手教育海外語学研修支援事業」を新設することになりました。研修の対象者として、前期の休暇中に2名、後期の休暇中に2名を全学に募集したところ、前期は法文学部の教員と共通教育センターの教員が、後期は共通教育センターの教員2名が、それぞれ書類選考で選ばれ、オーストラ

リアの大学にて有意義な研修を行いました。

共通教育センター専任教育の人員配置計画については、共通教育改革計画書で配置が承認された39名のうち、2016年度までに新規採用や学内異動により27名の配置が修了していたことから、残り12名の教員を配置する計画を立てました。その後、概算要求で認められた教員人件費により、高等教育研究開発センター（旧教育センターの高等教育研究開発部門）へ2名配置することになり、共通教育センターでは残り10名の配置について検討を進めました。その10名の内訳は、初年次教育・教養教育部門4名（人文社会科学系1名、自然科学系3名（物理、化学、地学で各1名））、外国語教育部門（英語）4名、体育・健康教育部門2名で、英語と体育・健康については、新規採用の可能性についても検討しました。しかし、新規採用は人件費ポイントとの関係で困難であることから、学内異動により10名全員を配置することにし、自然科学系6名、人文社会科学系3名、英語1名で全学に募集を行いました。その結果、人文社会科学系1名、自然科学系6名、英語1名で合計8名の応募があり、平成30年4月から共通教育センターへ異動することになりました。その結果、共通教育センターへの教員配置は、残り2名となり、その2名については2018年度に配置することにしました。

なお、2016年度に退官教員の後任補充等で公募していた英語教員2名が、10月1日付けで採用されました。また、2017年3月末で割愛により転出した教員の後任については、2018年10月1日の採用予定で、政治学及び政治思想、国際関係論を担当する教員（准教授、講師もしくは助教）の公募を開始しました。

### 3. 共通教育センター運営委員会

2017年3月16日に「鹿児島大学共通教育センター規則」が制定され、第9条に「センターに、センターの業務を円滑に処理するため、共通教育センター運営委員会を置く」と記載されていることをもとに、2017年4月より「共通教育センター運営委員会」を毎月1回、開催することになりました。この委員会で審議する事項は次のとおりです。①共通教育センターの運営に関すること、②共通教育カリキュラムの編成に関すること、③共通教育の授業実施に関すること、④共通教育の単位認定に関すること、⑤センターの規則の制定改廃に関すること、⑥センターの予算・決算に関すること、⑦センターの施設管理に関すること、⑧センターのファカルティ・ディベロップメントに関すること、⑨法人評価及び認証評価等に関すること、⑩非常勤講師の雇用に関すること、⑪科目等履修生の受入れ審査に関すること、⑫大学教育の全学的な連絡調整に関すること、⑬その他センターの運営及び業務等に関することです。

2017年度の主な審議事項としては、これまで暫定的に作成していたカリキュラムマップについて、仮称であった科目が決定されたことをうけ、記載文言等を変更して作成したカリキュラムマップが正式なマップとして承認されました。

次に、第3期中期計画の「グローバル化に関する目標を達成するための措置」の1つとして、「グローバル化が進む社会で異なる地域や文化に対して理解のある人材を育成するために、意欲的な学生に対して授業時間外に外国語活用能力を高めるための学修の場として、ネイティブや異文化経験が豊かな教員等が運営に携わる『外国語サロン（仮称）』を平2018年度までに開設するなど、異文化理解に関する学修機会を拡充する。」と記述されています。そこで、共通教育棟2号館1階に専用のスペースを設定し、外国語教育部門を中心に、10月から12月まで、「外国語サロン」を試行として開設しました。その結果、参加学生数が予想を大幅に上回るとともに、好評

であったことから、2018年度の4月より、本格稼働させることになりました。

カリキュラムについては、工学部が2020年度より導入を検討している「大括り入試」に関連して、「情報活用」と「基礎物理学実験」の取り扱いについて検討依頼があり、工学部の検討を踏まえた上で対応していくことになりました。

共通教育センターのFD活動については、改組に伴って共通教育課が3係から2系の体制になったことから、従前どおりの授業アンケートなどによるFD活動が困難なこと、2017年度に導入が予定されている、学習支援システムを利用したWebでの授業アンケートに転換する準備期間が必要であることなどの理由から、FD活動の一部を休止する暫定処置がとられました。その結果、「授業改善に資するアンケート」の実施は、必修科目である初年次セミナー、大学と地域、異文化理解入門のみとし、授業公開・授業参観可能な科目は初年次セミナーのみとしました。なお、授業アンケートについては、後期から学習支援システム（manaba）を利用して実施されました。

2018年度の大学入試センター試験に関して、共通教育センター教員を学部（法文学部と教育学部）へ4名派遣することにしました。また、2018年度新入生オリエンテーションについては、各学部より共通教育のカリキュラム及び履修について説明の要請があった場合には、対応することになりました。

その他、関係規則の一部改正については、鹿児島・南九州の「地域活性化の知の拠点」としての役割を担う本学が、地域人材の育成を行うために学部横断的な教育プログラムの枠組として提供する「地域人材育成プラットフォーム」の構成科目として位置づけられ、共通教育の2年生以上を対象に開講する「高度共通教育科目」に関連する規則の一部を改正しました。また、外国語科目分科会と体育・健康科目分科会については、共通教育センターの専任教員が増えたこと、学部選出委員の負担軽減を図ることなどの理由で、いずれも廃止することにし、関連する共通教育センター規則の一部を改正しました。それにともない、体育・健康教育部門会議及び外国語教育部門会議へ参加希望がある学部は、共通教育係に連絡し、あらためて学部委員の選出を依頼することになりました。

非常勤講師の雇用について、2013年4月1日以降に開始された有期労働契約者を対象とし、通算5年を超えて繰り返し更新された場合、労働者の申出により無期雇用転換となること、その時期が平2018年度雇用契約を締結した段階で本申出の権利が発生することから、共通教育センターでは2017年度の非常勤講師雇用者約185名のうち56名が本制度に該当するので、当該ルールに対応する全学的方針に従って対応することになりました。

その他、11月開催の共通教育センター運営委員会が修了した後で、保健管理センターにて「アレルギー疾患対応も含めた一次救命措置に係る講習会」を開催したところ、多数の共通教育センターの専任教員が参加し、有意義な講習会となりました。

#### 4. 共通教育委員会

共通教育委員会は、2017年3月16日に制定された「鹿児島大学共通教育委員会規則」により、グローバルセンターから選出された委員が加わるなど、これまでの共通教育委員会とは構成委員がやや異なった会議体でスタートしました。

共通教育委員会では、共通教育カリキュラムの現状と課題について、次の4つの観点から検討することになりました。（1）卒業要件単に数の再検討について、（2）初年次教育科目の検討に



について、(3) 教養教育科目の検討について、(4) 地域人材育成プラットフォームへの科目提供についてです。

卒業要件単位数の再検討については、初修外国語を卒業単位に課している学科は専門教育との関連から、その必要性の再確認を依頼しました。その結果、医学部保健学科では、4単位必修としていた初修外国語を必修としないこととする代わりに、人文・社会科学分野の選択科目（初修外国語も含む）の単位数を2単位から6単位へと増やすことになりました。なお、基礎教育入門科目についても、設置目的及び専門教育との関連性から、その必要性の再確認を関係学部依頼しましたが、検討の結果、変更を申し出た学部はありませんでした。

初年次教育科目の検討については、初年次教育科目の検証を行うとともに、特に異文化理解入門科目の非常勤講師率が高いことから、今後WGを設置し検討することにしました。また、教養教育科目の検討については、自然科学分野科目が少ないことから抽選漏れも多いなど課題があることから、自然科学分野の選択科目の開設を増やすための方策についての教示依頼と、非常勤講師担当科目の精査について関係学部へ検討を依頼しました。なお、初年次セミナーの全学支援体制については、共通教育センターの専任教員が学内異動で増えたものの、学部の専門教育を多く担当する教員も多いため、引き続き全学の支援が必要であることから、各学部の割当について検討した結果、了承されました。今後、各学部への担当割当依頼は、共通教育センター専任教員の教育体制を整えつつ、徐々に減らしていくことを説明しました。

地域人材育成プラットフォームへの科目提供については、現在「かごしまリサーチプログラム」と「かごしまキャリア教育プログラム」の2つのプログラムが開設されているが、COCプラス事業では2019年度迄に教育プログラムを増やす必要があることから、今後検討を依頼することになりました。

グローバル教育科目群については、各種技能審査合格等の単位認定基準の変更について審議した結果、認定できる級位または得点に関して、実用英語技能検定では2級を準1級に改めたり、TOEICについては4技能（聞く、話す、読む、書く）を元にした得点に改めたりすることが承認されました。

共通教育の行事予定について審議した結果、2018年度は曜日振替無し案で実施するが、2019年度からは曜日振替を実施する方向で検討することにし、その具体案の1つとして、授業開始を早めるために受講者名簿の作成方法を変更することなどを検討してくことになりました。

## 5. 今後の展開

今後の展望として、残り2名となった共通教育センター教員の人員配置について、2018年度中に完了させる必要があります。また、必修科目である初年次教育科目やグローバル教育科目の内容、教育方法については、授業担当教員の意見や授業アンケートの結果をもとに、テキストやワークブック、マニュアルも含めて改善していく必要があります。さらに、学部横断型プログラムである地域人材育成プラットフォームに関しては、共通教育として開講が予定されている高度共通教育科目も検討しつつ、プログラムの充実を図る必要があります。そして、2016年度にスタートした新カリキュラムのさらなる充実を図るためには、来年度から本格稼働する学習支援システム（manaba）を有効に活用しながら、共通教育センターを中心とした総合教育機構だけでなく、引き続き全学による共通教育の支援体制が望まれます。

## 共通教育センター

## 初年次教育・教養教育部門活動報告

初年次教育・教養教育部門長 岩船 昌起

## 1. はじめに

初年次教育・教養教育部門は、平成29年4月に「共通教育センター」創設とともに設けられた3部門のうちの1部門である。平成29年度本部門構成教員11名は、本学の文系または理系の学部等あるいは他大学からの異動等によって在席することとなり、それぞれ専門分野の知識や技能等を生かして教育研究活動を行っている。他の2部門の体育・健康教育部門および外国語教育部門に比較して、本部門では“専門性”が豊かで、多種多様な授業科目の実施にかかわっている。

初年次科目にかかわる検討事項については「初年次科目分科会」でも所掌されており、教養科目にかかわるそれについては「教養科目分科会」にて取り扱われている。本来、初年次教育および教養教育にかかわる企画運営等を検討すべき組織であり、それを期待されて各学部等から教員が異動してきたものの、現時点では、異動してきた各学部での授業等の負担との兼ね合い等から、本部門では、特に初年次教育にかかわる企画等の業務を中心に執り行っていない。本稿では、このように「試運転的な状態」にある本部門での平成29年度の活動を報告する。

## 2. 平成29年度の活動内容（審議事項）

- (1) 初年次教育・教養教育部門会議の運営
  - ・「初年次教育・教養部門」の位置づけ・あり方
  - ・部門会議の開催方法等
- (2) 管理・運営費の扱い
- (3) 「初年次セミナーⅠ」担当者への「教科書に関する意見等」調査
- (4) 期末試験の別室監督者の割り当て
- (5) 共通教育センター教員評価の見直しに向けての検討および意見の取りまとめと確認

## 3. 改善事項等

各学部等から異動してきた本部門構成教員は、必修科目「初年次セミナーⅠ」および「初年次セミナーⅡ」等を担当しつつ、初年次教育にかかわる授業の内容や運営等のあり方を個々に考え、本学にとって適切な初年次教育のカリキュラム等の体系を模索している。初年次科目分科会についても、別稿にて報告されるが、初年次教育の管理運営の一部を担っているのみで、平成29年度におけるその企画立案等については、実質的に執り行っていない。本部門教員の兼業状態が改善され、かつ「初年次教育」全般についての知識と経験が蓄積された段階では、本学の共通教育での根幹となる「初年次教育」のほぼ全てにおいて、実質的に任されることになるのであろう。

また、「初年次教育」における必修科目の一つである「大学と地域」についても、COCセンターが平成30年度を持って閉設されることとの関係から、平成31年度以降での企画運営等については、本部門あるいは初年次教育科目分科会のいずれか／両方において担うこととなる予定であり、現状の把握を行いつつ、改善策を具体的に見出す準備を行う必要がある。そして、「異文化理解」については、本部門教員が責任教員を務めている。

一方、教養教育については、本部門副部門長を中心に、教養科目分科会にて実質的なところも含めて執り行われている傾向にある。

今後、本部門が担う割合が大きくなることが明らかであり、今後に備えたい。

## 共通教育センター

## 初年次科目分科会 活動報告

初年次科目分科会長 岩船 昌起

## 1. はじめに

初年次科目分科会は、平成29年4月に創設された。審議等の結果は「共通教育センター運営委員会」に上程される。1号委員（共通教育センターから1名選出）、2号委員（法文学部、教育学部、理学部、医学部、歯学部、工学部、農学部、水産学部、共同獣医学部から各1名選出）、3号委員（高等教育研究開発センターから1名選出）の11名からなる。専門教育の基盤となる共通教育を実施運営するにあたり、各学部選出委員等の意見を早期に反映させる機能を有している。

本稿では、本分科会での平成29年度の活動について報告する。

## 2. 平成29年度の活動内容（審議事項）

- (1) 初年次科目分科会の位置づけや役割等
- (2) 開設授業科目の変更等の確認 — 「初年次セミナーⅠ」「大学と地域」
- (3) ゲスト講師招聘の年度計画の確認 — 「大学と地域」
- (4) 平成30年度「共通教育履修案内」での「初年次セミナー」の確認
- (5) 平成30年度以降での「初年次セミナー」担当の学部負担についての検討
- (6) 初年次セミナーⅡ情報交換会の内容（議事録）の確認

## 3. 改善事項等

初年次科目にかかわる企画運営等については、初年次教育・教養教育部門会議でも取り扱われることとなっており、これと連携しつつも取扱い事項の整理分担が今後必要になるであろう。「初年次セミナー」および「大学と地域」については、授業内容および運営方法等に課題があり、高等教育研究開発センターおよび産学・地域共創センターから所管が移る過程で、柔軟に見直す必要がある。

## 共通教育センター

## 教養科目分科会 活動報告 平成29年度

教養科目分科会長 渡邊 弘

## 1. はじめに

教養科目分科会は、平成29年4月に創設された。審議等の結果は「共通教育センター運営委員会」に上程される。委員については、(1)共通教育センターから選出された者2名、(2)各学部の教授、准教授または講師の内から選出された者各1名、(3)その他センター長が必要と認める者若干名からなる（鹿児島大学共通教育センター運営委員会規則第8条第3項）。本分科会は、初年次科目をはじめとする共通教育諸科目と連携しつつ、専門教育の基盤となる能力を涵養するとともに、学士にふさわしい広く深い教養を学生に得させるべく、体系的な教養教育のあり方について議論し、教育を実施する機能を有している。

## 2. 平成29年度の活動内容

- (1) 教養科目分科会の位置づけや役割などの確認
- (2) 開設授業科目の精選と体系化
- (3) 非常勤講師担当科目の精査
- (4) ゲスト講師招聘に関わる年度計画・授業計画の確認
- (5) 単位を認めるべき放送大学科目の選定と単位認定試験の実施
- (6) 平成30年度「共通教育履修案内」等の改定
- (7) 教養科目全体の教育目標の検討
- (8) その他、教養科目に関わる事項

## 3. 改善事項など

第一に、非常勤講師担当科目についての「申合せ」を作成し、教養科目については原則として専任教員が担当する方向で調整を行うことを明確化した。この「申合せ」に基づき、平成29年度中に非常勤講師担当科目を一定程度削減することとなった。この点については、平成30年度以降も引き続き「申合せ」に沿った形で検討・実施することとしている。

第二に、教養科目全体の体系化に関する議論を開始した。教養科目は、全学のディプロマポリシー・カリキュラムポリシーとの整合性をもつよう編成され、かつ、共通教育科目全体の教育目標と整合性のあるかたちで体系化されるべきであることを確認するとともに、教養科目の教育目標に関する議論を開始することができた。平成30年度は、この成果に基づき、さらに議論を行った上で、教養科目の精選と体系化を進める。同時に、学生の教育要求に応えられる教養科目編成を実施していきたい。

## 共通教育センター

## 実験等科目分科会 平成29年度活動内容

実験等科目分科会長 横川 由起子

以下の問題に関して、次年度に向けて対応策を講じることにした。

**1. 70歳を越える共通教育センター非常勤講師の変更**

共通教育センター非常勤講師に関する申し合わせに「非常勤講師の年齢は年度末年齢70歳を上限とする」と規定している。そのため基礎数学入門、基礎化学入門 A については、平成30年度から常勤の教員が担当することにした。基礎物理学実験では、新規に70歳以下の非常勤講師を雇用した。しかし基礎物理学実験については、まだ70歳を越えている非常勤講師が多いのが現状である。基礎物理学実験を担当できる70歳以下の非常勤講師を、早急に見つけることが必要である。

**2. 実験の講義コマ数の削減と非常勤講師の削減**

平成28年度から、4科目の実験を2単位から1単位にした。しかし過渡期でもあったため、平成28～29年度はこれまでと同様のコマ数を開講した。そのためクラスによっては受講者数が非常に少ないクラスがあった。そこで統合が可能であるコマは統合し、一部は廃止することにした。これにより、非常勤講師の削減が可能となった。また受講者数が少ないと見込まれるクラスの非常勤講師の削減も行うことにした。非常勤講師の雇用削減は、適正な人件費にもつながる。

**3. 実験の事故防止策・安全管理**

平成29年度から、基礎化学実験は白衣の着用を義務付けた。

**4. 基礎統計学入門の担当教員**

基礎統計学入門を必修指定している学部は多いが、担当できる教員が少ない。そのため、1クラスが多人数の受講生になっており、担当教員に負担がかかっている。基礎統計学入門の指定やクラス編成の見直し、担当教員の確保等が今後の課題である。



## 共通教育センター

## 平成29年度 情報科目分科会

情報科目分科会長 新森 修一

平成29年度から新しい総合教育機構がスタートし、本委員会の名称も「情報科目委員会」から「情報科目分科会」に変更された。本分科会が所掌する科目「情報活用」については、共通教育において、必修科目－初年次教育科目に位置付けられ、全学部で1期に開講する科目である。本科目では、コンピュータの機能を十分に活用するための基本的な知識・技術、プレゼンテーション技能、インターネットの適切な利用方法および情報セキュリティについて学修するとともに、本学の情報ネットワークやコンピュータの教育環境を有効に活用する能力等を修得することを目指している。本年度の主な活動な内容等と次年度の取組み、検討事項や展開等について簡潔に述べる。

## 1. 平成29年度の主な活動内容等

- (1) 新入生履修申請時における科目「情報活用」等の申請指導・助言（各学部委員）
- (2) Moodle を利用した双方向情報教育の強化  
（授業アンケート、ミニッツペーパー、携帯版 Moodle 等の取り組み）
- (3) 情報セキュリティ教育のさらなる強化  
（学術情報基盤センターのセキュリティ教育コンテンツ活用の推進等）
- (4) 科目「情報活用」の担当教員や TA の確保、TA 活動報告書の分析など
- (5) 次年度の開設科目の依頼・確認と TA 経費の申請
- (6) 授業運営経費にて、135号教室に赤外線マイクシステムの設置とレーザーカラープリンター用トナーの補充

## 2. 次年度の取組み、検討事項や展開等

- (1) 科目「情報活用」の円滑な実施と問題点等の検討
- (2) 学術情報基盤センターとの連携、セキュリティ教育強化のためのコンテンツ利用の推進
- (3) 「情報活用」と「初年次セミナー I」との連携の在り方
- (4) 「情報活用」のクォーター制の検討
- (5) TA 制度の活動評価方法などの検討
- (6) TA による教育成果報告書（教員）、TA 業務に関する報告書（TA）の確実な回収と分析
- (7) 新・学習管理システム manaba の積極的な活用

共通教育センター

平成29年度 日本語・日本事情科目分科会

日本語・日本事情科目分科会長 和田 礼子

1. 本年度の主な活動内容

- (1) 新入生（外国人留学生）に対し履修申請時に補助をおこなった。
- (2) 共通教育改革に伴う開設科目の変更

共通教育改革に伴い「初年次セミナーⅠ」「大学と地域」「異文化理解」が留学生の必修科目に加わった。論証型レポートの作成を学習目標とする「初年次セミナーⅡ」は日本人学生には必修だが、語学的要素が強いことから留学生には必修とせず、その内容を日本語科目で取り扱うためカリキュラム変更を行った。具体的には前期に開講する「日本語Ⅱ」で「レポートの構成・表現」を学び後期に開講する「日本語Ⅳ」でレポート作成を行うこととした。

また、日本事情科目に関しては、必修科目が増え、「大学と地域」「異文化理解」の内容が「日本事情」とやや重複するという理由から H28年度は3科目開講していた日本事情科目を2科目に減らした。この結果、日本語・日本事情科目は、日本語科目－4科目、日本事情科目－2科目となり、1年時に履修し終わることとなった。

- (3) 留学生の学習状況の把握

新しく必修科目になった「初年次セミナーⅠ」について留学生を対象にアンケート調査を行い、学習状況の把握に努めた。この調査結果は今後の日本語科目での指導に反映させていきたい。

2. 次年度の課題

- ・「初年次セミナーⅡ」への対応について

H29年度は「初年次セミナーⅡ」の学習内容を日本語科目に取り入れたカリキュラムを実施したが、これを検証し、留学生の日本語力強化とアカデミッジャパニーズを身につけるための効果的な方策について検討する必要がある。

## 共通教育センター

## 学芸員資格科目委員会

学芸員資格科目分科会長 井村 隆介

学芸員資格科目委員会では、関係部局（法文学部、教育学部、理学部、農学部、水産学部、共通教育センター）と鹿児島大学総合研究博物館とで3回のメール会議を含む計5回の会議が開催された。昨年度同様、学芸員資格に関する科目の実施や夏休みに行われる博物館実習の受け入れ先の調整などについて話し合い、スムーズにカリキュラムを実施することができた。また、平成29年度入学生より、農学部の学芸員養成課程が廃止となったので、農学部の過年度入学生について不利益にならないように対応していくことが委員会で確認された。

これまで学芸員資格科目委員会の課題であった、外部からの非常勤講師が多いこと、非常勤講師が高齢化していること、について引き続き審議し、雇用計画の見直し等を行ったが、大きな改善には至らなかった。今後予定されている共通教育課程の見直しと合わせて検討していく必要がある。

## 共通教育センター

## 平成29年度 体育・健康教育部門活動報告

体育健康科目分科会長及び体育・健康教育部門長 末吉 靖宏

## 体育・健康教育部門

## 1. 平成29年度の主な活動内容

## (1) 体育・健康の授業について

体育・健康科学実習では、平成30年度の実習ノートの改訂を行った。また、非常勤講師を含む体育・健康科学実習担当教員を対象に平成30年度に向けた研修会を以下の内容で行い、共通理解を図った。

- ① 実習の学習目標と学習内容および評価についての確認(同一科目として統一を図るために)
- ② 実習ノートの改訂についての説明
- ③ 平成29年度に新規購入したトレーニングマシン（6台）の取り扱い説明と試行
- ④ ニュースポーツ種目の解説と実演

## (2) 体育・健康に関する研究的取り組み

新入生の体力測定および有酸素能力の測定を集計し、平均値や5段階評価境界値を求めて平成30年度の実習ノートの中に反映させ、今後の研究データとして蓄積した。

## (3) 体育・健康に関する施設設備の管理

- ① 実習関連の体育器具、施設設備の巡視および安全確認を定期的に行い、老朽化した体育器具の廃棄を行った。
- ② 老朽化し、利用学生の危険度が高いと予想されるトレーニングマシン4台を廃棄し、新しいトレーニングマシン4台と入れ替えた。また、次年度以降に入れ替えが必要なマシンの点検と購入計画を立てた。
- ③ 手押し式スーパーを使用して、第2体育館の玄関および玄関前の清掃を頻繁に行った。
- ④ 第2体育館の修繕工事を以下の通りに行った。
  - ・玄関ロビー、階段、男女更衣室、男女シャワー室にLED照明（人感センサー）を設置
  - ・エレベーター設置
  - ・玄関タイル貼り替え
  - ・卓球場およびトレーニング室の床補修工事
  - ・2階アリーナの床補修（ウレタン樹脂塗装）

## 2. 体育・健康に関する今後の課題

## (1) 体育・健康の授業について

- ① 新規購入したトレーニングマシンを正しく安全に取り扱できるように掲示の工夫や体育実習での指導が必要である。
- ② 体育・健康科学理論について、現在、シラバスの内容が教員ごとに異なったままである。この統一を図るため授業内容および評価の統一を目指す。このため、「体育・健康科学理論」として鹿児島大学入学の1年生全員に7回の講義で伝えるべき内容の検討を行い、授業内容の統一化を目指して、定期的な授業検討会を実施していく。



## 共通教育センター

## 2017年度 外国語教育部門活動報告

外国語教育部門長 ネバラ・ジョン

高等教育（大学教育）は、時代に合わせながら変化しつつある。高等教育の中の一つの部門である外国語教育も例外ではない。学生や社会のニーズに合わせてながら、鹿児島大学共通教育センターの外国語教育部門は、毎年進歩できるよう努力している。2017年度の活動内容を振り返ってみると、まさにその通りである。忙しい一年であった。この報告には1) 体制について、2) カリキュラムについて、3) 現場について、の三つの分野に分けて一年間の活動を手短に紹介する。

## 1) 体制について

2017年度には「グローバル化」に対応する外国語教育の体制を確認し、必要に応じて調整を行ってきた。2016年度末までであった外国語教育推進部の代わりに、2017年度から外国語科目分科会が中心となる組織になった。これに伴い、初修語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語）のため、副部門長という新しいポストが導入された。また、別の例を挙げると、既修語（英語）関連の仕事の役割分担を徹底し、毎月英語ミーティングも行った。これに加え、2016年度からの共通教育の新しい体制に基づき、外国語関連では、4月からドイツ語教員1名と、10月から英語教員2名をセンターに迎えることとなった。教育のカリキュラム等がしっかり管理できるよう、部門を充実化している。多くの非常勤講師を含め、教員全員が協力し合い、本学の外国語教育に貢献できるように、良い職場環境作りと適切な担当振り分けに努めた。このような「インフラ整備」のような活動を行ってきた。

## 2) カリキュラムについて

外国語教育のカリキュラムも確認し、必要に応じて調整を行ってきた。2016年度から新カリキュラムを導入したので、当然ながら2017年度から調整が必要であった。PDCA（Plan-Do-Check-Act）サイクルを考えると、例えば2016年度に課題として出てきたことを2017年度に改善した。一例として、1年生の英語教育はライティング指導が足りないという指摘があったので、2017年度からライティング中心の授業を増やした。このため、推奨教科書リスト等も見直した。実は、新しいカリキュラムでは2年生用の英語 III と英語 IV を初めて教えたので、英語教員が英語ミーティング等で点検をしながら、年度途中と年度末に非常勤講師を含めた会でのテーマにした。これも PDCA サイクルに基づいたものである。また、外部試験の単位認定制度を変更したことは、カリキュラム確認の中の大事なことの一つである。英語と中国語の単位認定基準を変更したが、特に英語の基準を大幅に高くした。学生がもっと英語を勉強する、もっと高いレベルを目指すためのものである。その上で、教員にも学生の英語能力に責任を持たせるためのものでもある。また、GTEC CTE の英語外部試験（2016年度から学生全員に実施）を中心に、実施・運用状況について英語ミーティング等で諮ることにした。この件に関して、詳細は2017年度末に出来上がった56ページものの「鹿児島大学 平成28（2016）年度 共通教育英語教育活動報告書」にまとめたので、こちらでは説明を省く。

### 3) 現場について

体制とカリキュラムがどんなに良くても、現場（主に授業）に係る点検や整備を行う必要がある。学生にとって一番大事なことである。2017年度は教員同士で授業方法・授業内容の問題点を探り、授業改善に努めた。例えば、授業時間外の学習やフィードバックの方法等について検討した。結果として、これが英語教育の推奨教科書リストの改善に繋がり、8月と2月にあった英語FD会のテーマの一つになった。また、どのようにE-learningが授業に導入できるかについて話し合った。初修語の方では、同じように授業の点検や整備が行われた。例を挙げると、初修語授業と異文化理解入門のクラスサイズや運用方法について点検と整備があった。しかし、2017年度では現場の一番大きな変更点はLOL 外国語ラウンジのパイロット・プログラムの実施であろう。10月から英語、韓国語、フランス語、中国語、イタリア語の5ヶ国語で始めた。授業ではないが、授業を補填する形で学生の外国語学習の動機づけになる、楽しく外国語を使うスペースとして生まれた。既修語と初修語の教員全員の協力で、予定より6ヶ月早い10月に学生のために作り上げられた。その後、概念に基づき、運用されてきた。参加した学生の間では好評で、リピーターが多かった。

2017年度の外国語教育部門活動は上記のようであったことを報告する。字数が限られ、全ての活動について書けないが、主な活動について触れた。しかし、今後の展開としては、少なくともいくつかの課題が残っている。体制から考えれば、また2018年度から変更がある。外国語科目分科会が廃止となる。今まであった学部とセンターの繋がりも無くならないように気をつけながら、新体制で運用しなければならない。そのうち、新しい文化・新しい運営の仕方が生まれればと思う。しかし、良い職場環境の下、教員全員が協力・共同できることは、学生に良い教育を提供できることに変わりはない。従って、外国語教育部門の充実化を念頭に、英語専任教員の追加採用を2018年度に検討する。

カリキュラムの面では、2017年度末までに1年生用の新カリキュラムを2年間続けて、2年生用の新カリキュラムを1年間実施したことになる。PDCA サイクルでは、2018年度が確認できる年になる。既修語の場合、一年をかけてカリキュラムを確認し、必要に応じて調整を行う予定である。あらゆるエビデンス（つまり、データ）に基づき、教員全員で話し合って改善点を見つけるつもりである。いわゆるプログラム評価を行う。評価方法について、大学改革支援・学位授与機構の「教育の内部質保障に関するガイドライン」に基づく。

このプログラム評価を機に、授業に係る点検や整備も行う予定である。2017年度に検討した問題点等を掘り下げ、更なる授業改善に努める。ここでは、授業時間外学修の確保、マナバの活用方法、E-learning の検討など、様々なことについて議論する。また、LOL 外国語ラウンジが本格的に始まる。英語、韓国語、フランス語、中国語、イタリア語、に新しくドイツ語が加わる。ラウンジの新しい展開になるので、運営の仕方が難しくなるであろう。「学生のため」というモットーを忘れずに運営できればと考えている。

以上、2017年度の外国語教育部門活動報告である。

## 共通教育センター

## スタッフ紹介

**飯干 明（共通教育センター長、教授）**

2013年4月より共通教育センター長を務めさせていただいており、5年目となりました。平成2016年度からスタートしました、共通教育新カリキュラムの現状の分析と課題の検討を進めるとともに、共通教育センター専任教員の計画的な増員にも取り組みました。新カリキュラムにつきましては、全学の教職員の皆様のご理解とご協力をいただきながら改善に取り組み、共通教育の充実、発展に貢献できればと思っております。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

**桑原 季雄（共通教育センター副センター長 初年次教育・教養教育部門 教授）**

法文学部から本センターに移籍して2年目になります。専門は文化人類学と島嶼学です。特に鹿児島県の島々の人類学的研究に力を入れています。授業は初年次セミナーの他に、「文化人類学の世界」と「屋久島の環境と文化」を教えています。最初の着任が本学の旧教養部だったので、20年の時を経てまた最初の職場に戻ってきたような感じです。この間、大学や学生の置かれた状況も大きく変わりました。この変化に自も適応しつつ教育に取り組んでいきたいと思っています。

**岩船 昌起（共通教育センター初年次教育、教養教育部門長 教授）**

2017年4月より、初年次教育・教養教育部門長を務めさせていただいております。さまざまな分野の専門家からなる本部門では考え方が多様であり、部門内での調和を図るために重要事項の取り扱いでは「説明と同意」に努めております。個人としては、地理学、防災科学、健康環境学等を専門としており、南九州や南西諸島での地域防災力の強化にかかわるとともに、本学の初年次教育等でも防災教育の推進に積極的に取り組んで参りたいです。

**末吉 靖宏（共通教育センター体育・健康教育部門長 教授）**

教育学部から2017年4月に学内異動して参りました、共通教育センター体育・健康教育部門の末吉です。現在、部門長を仰せつかっています。鹿児島大学での教員生活は、1987年に旧教養部保健体育科の助手として始まり、その後教育学部に学内異動し、今回が2回目の学内異動となります。教育学部では生涯教育総合課程健康教育コースの学生指導を行っており、課程の廃止は決まっておりますが、しばらくは共通教育センターと学部の二輪車状態が続きます。今後再び新しい「体育・健康科目」の授業構築で共通教育センターの教育に貢献できればと考えています。

**ネバラ ジョン（共通教育センター外国語教育部門長 教授）**

2016年4月より共通教育センターの一員として赴任しましたネバラです。アメリカ出身で、1990年に初めて日本に参りました。鹿児島大学の前は、9年間神戸にある大学で働いていました。その前は、東京、鳥取、名古屋にも住んだことがあります。研究のテーマは特に英語教育（専門英語）と高等教育です。趣味はスポーツ（特にバスケットボール）や日本語の学習です。鹿児島大学の英語教育向上に貢献できたらと思っています。

**渡邊 弘（共通教育センター初年次教育・教養教育副部門長 准教授）**

最近、特に興味を持っているテーマは、①憲法や法律を子どもたちにどのように教えたらいいか（法教育）、②憲法の基本的理念（特に個人の尊重）に関する研究、③新聞を活用した教育のあり方（NIE：教育に新聞を）です。

憲法に定められた基本的人権については、私たちの日常生活の「常識」からすれば、一見おかしいこともあります。一つの例が「悪いことをしたとしても、それについて黙っていい」という黙秘権の保障です。このような憲法の定めをどうやって理解してもらうか、日々悩んでいるところです。

**福満 博隆（共通教育センター体育健康教育副部門長 准教授）**

2017年4月に教育学部から移籍してきました。鹿児島大学へは、1992年7月に旧教養部保健体育に赴任しました。教養部廃止後1997年から教育学部に移籍しましたが、移籍後も教養部が担っていた大学体育の教育には、元教養部の先生方と責任教員として携わってきました。移籍当時は8名でしたが、現在は4名の専任教員で忙しく頑張っています。今後も大学体育の教育の充実に力を注いでいきたいと思っています。専門分野が野外教育、レクリエーションなので、教養科目では自然体験活動入門講座を担当し、夏は高隅にある自然学校でキャンプ実習を行い、学生たちと沢登りを満喫しています。

**中筋 健吉（共通教育センター外国語副部門長 准教授）**

本学、旧教養部、法文学部を経て、2017年に転属してまいりました。全学共通教育においては「初級中国語Ⅰ」「初級中国語Ⅱ」を担当しております。専門は中国の古典文学で、漢魏六朝時代の詩文、文論を研究対象にしており、その影響を受けた明代の文学にも目を向けています。また近年は盛唐の詩人李白の作品にも対象を広げ、特にその古詩や古賦に注目しています。次々と新しいものが生まれては目まぐるしく消え去っていく現代社会において、「故（ふる）きを温（あた）めて新しきを知る」ことのできる古典の素晴らしさを、学生の皆さんに伝えたいと思います。

**黒田 景子（共通教育センター初年次教育・教養教育部門 教授）**

2017年に法文学部人文学科から移籍してきました。共通教育センターでは主に初年次セミナーを担当しています。研究では東南アジア史、特にタイとマレーシアの歴史を文献だけではなく、現地に行って聞き取り調査をし、生態観察をおこなう地域研究的な手法で行っています。初年次セミナーの皆さんは高校まで、「ただ1つの正解」がでるような問題ばかり勉強していました。それらは注意深く受験のために選ばれたものです。現実の世界において正解はなかったり、複数あったりして悩むことがあります。その悩みを自分で考えて解決するのが大学です。好奇心をもって楽しく研究しましょう。

**大野 克彦（共通教育センター初年次教育・教養教育部門 准教授）**

共通教育では「異文化理解入門」「初級独語」「独語入門」、教育学部では言語学関連の授業を担当しています。専門は対照言語学および言語類型論で、様々な言語の文法を比較研究しています。

1991年に旧教養部に着任、旧教養部解体により1997年から2016年まで教育学部、2017年に共通教育センターに移動してきました（戻ってきました、という感覚です）。まだしばらくは、学部の授業や諸委員の仕事等が残っているため、こちらで新たな科目を開講する余裕はありませんが、現在担当している授業に全力を傾注して、鹿児島大学の共通教育に微力ながら貢献できればと思っています。



**庄野 宏（共通教育センター初年次教育・教養教育部門 准教授）**

学内異動により2017年4月に水産学部から移ってきました。専門は水産資源解析学・応用統計学で、漁業データ等を用いて海中にいる魚の数を推定する資源評価、魚をどのように獲っていけば良いかを考える資源管理の研究に従事しています。また、医薬品臨床試験や計量経済学、マーケティングなど統計学の応用研究にも携わっています。教育面では数学や統計学、水産資源学等の講義を担当しており、特に学部1－2年生の基礎統計学の授業を多く受け持っています。ビッグデータ時代における統計学の重要性は高まっており、学生の皆さんが社会に出てからも役に立つ知識を教授することを心掛けています。

**藤田 志歩（共通教育センター初年次教育・教養教育部門 准教授）**

2017年度に共通教育センターに着任しました。授業では、初年次セミナー（Ⅰ・Ⅱ）、屋久島の環境文化（生き物）などを担当しています。新たな分野の授業を受け持つことになり、試行錯誤の1年が過ぎました。学部混成授業のため、多様な意識や目的を持つ学生らから多くの刺激を受けながら、授業づくりを進めています。

私の専門は霊長類学です。現在は、ガボン共和国で、野生ゴリラの行動や生態について研究をしています。また、ニホンザルやアマミノクロウサギなど、鹿児島県に生息する野生動物の研究にも取り組んでいます。

**山田 隆行（共通教育センター初年次教育・教養教育部門 講師）**

2016年4月より共通教育センター講師とされ採用されました、山田隆行といたします。

自分の専門分野は統計学です。情報技術の進歩により、大規模なデータの収集・保存が可能になりました。そのようなデータから情報を読み取る手法を研究しております。1年生対象の講義を主に担当しますが、専門教育へうまく橋渡しができるように尽力する所存です。

よろしくお願いします。

**郭 永明（共通教育センター初年次教育・教養教育部門 助教）**

前の所属は鹿児島大学工学部と理工学研究科でした。2017年4月より共通教育を主担当とし、専門教育を兼担することになりました。専門分野は計算力学と機械工学です。新しい計算力学方法の開発、塑性加工に関するシミュレーション方法の高度化は主な研究テーマです。いくつかのメッシュレス法、選点法、部分領域法などのオリジナル数値計算方法を提案しています。また、これらの方法および有限要素法等を用いて、コンピューターで塑性加工等における被加工材と工具の変形を再現し、設計と加工の最適化を図っています。

**河邊 弘太郎（共通教育センター初年次教育・教養教育部門 助教）**

2017年4月に自然科学研究支援センター遺伝子実験施設から異動してきました。初年次セミナーと教養基礎科目として生物学などを担当しています。自分にとっては新たなチャレンジである初年次教育についても理解を深め、少しでも学生さんたちにとって有益な内容を教えられるように努力してまいります。専門分野は動物遺伝学で、アジア各地に生息している、在来のニワトリの多様性や野生種であるヤケイとの類縁関係について調べています。

**金岡 正夫（共通教育センター外国語教育部門 教授）**

大学の英語教育カリキュラムを研究しています。自己論、社会構築主義、自律学習、スピリチュアリティ、動機づけが基本キーワードになっています。人生の来歴が「カリキュラム」の語源か

つ本質です。それゆえ英語（学習・教育）は確かな自己形成と内面的成熟にどう有機的に関わり、融合し、貢献していけるのか。これが最近の研究テーマです（vs. 道具主義・行動主義英語教育）。この教育・研究路線で世界の研究者とのつながりを進めています（e.g. 国際学会シンポジウム）。研究知見と成果は授業に還元し、そこから新たな学びを教室現場から得ています。有機的連動があってこそこの大学英語教育です。

#### 高橋 玄一郎（共通教育センター外国語教育部門 教授）

総合教育機構発足の初年度（2017 年度）は、新カリキュラム対応の英語教育改革が新たにスタートした2年目にあたります。それに係る諸活動の流れを辿る一助として、本年報の他、「2016 年度英語教育活動報告書」が2017年度に部門の英語教員によりまとめられています（鹿大レポジトリ）。変化の激しい教育現場での様子を顧みつつ、新たに取り組む教育の一端を考える機縁となれば幸いです。教職協働のもと、試行錯誤を経ながら新たな知識や知恵が生まれているように感じます。新しい活力を得た機構を通じ、具体の仕事で多様な見方、考え方を学ばせていただきながら、微力ですが努めて参ります。

#### 安東 清（共通教育センター外国語教育部門 准教授）

旧教養部から教育学部を経て共通教育センターへと職場が変わってきました。教育学部にはまだ指導すべき学生が残っているため、共通教育センターと教育学部とを兼任しています。専門はドイツ語教授法と社会言語学で、共通教育では長年ドイツ語を教えてきていますが、教育学部での授業はドイツ語と言語学の他に、異文化理解的な観点からドイツヨーロッパをはじめとする世界各地の文化、慣習等も取り扱っており、学生の海外実習や留学の指導も行っています。言語はどれだけ学んでも学びきれるものではなく、その面白さを伝えることができたと思っています。

#### アン・ブレイジア（共通教育センター外国語教育部門 准教授）

2006年に赴任、あっという間に12年が経ちました。現在1、2年生の英語科目を担当しています。そして2017年度後期以降、LOL（Language Out Loud）という外国語라운ジの運営を担当しています。LOLとはすべての鹿児島大学生、特にやる気のある1、2年生で、共通教育で外国語を受講中の学生を対象とし、授業とは離れて楽しく前向きな姿勢で自律学習することができる場所、異文化と触れ合いながら、かつ外国語でコミュニケーションをとる機会を提供するラーニングスペースです。それぞれの学生が対象言語を使用する機会を十分に確保するため、英語、韓国語、フランス語、中国語、イタリア語、ドイツ語を含めて合計週9回にセッションを開講しています。LOLは新しい取り組みですので、まだ改善点があると思います。これからグローバルな視点で、更に共通教育における外国語の発展を目指していきたいと思っています。

#### 鄭 芝淑（共通教育センター外国語教育部門 准教授）

ヨロブン、アンニョンハシムニカ（みなさん、こんにちは）。韓国語を担当しています鄭芝淑（ちょんじく）です。鹿児島大学に赴任して3年目を迎えました。初めての土地で最初はちょっと不安でしたが、住めば都で今ではすっかり鹿児島が好きになりました。専門は韓国語教育と比較ことわざ学です。教室はもちろん授業外活動でも、できるだけ多くの学生と触れ合うよう心がけています。せっかく鹿児島に来たのですから、鹿児島弁と鹿児島のことわざについても少しずつ勉強しています。これからも学生の皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っています。チャルプータッカムニダ（よろしくお願いします）。

**トレマーコ・ジョン（共通教育センター外国語教育部門 准教授）**

イギリス出身で専門は応用言語学で、鹿児島大学において本年で12年目です。それ以前は関東で上智大学やICU、広島での勤務を経験しました。私の研究の核となるものは、医学英語「医者と患者のコミュニケーション（谷山生協病院でのボランティア）」とラーニングストラテジーに焦点をあてています。一生懸命頑張る学生をサポートする存在であり続け、鹿児島大学の英語教育向上（英国との留学プログラム作成など）に貢献できるように活動しています。

**ハムチュック モニカ（共通教育センター外国語教育部門 准教授）**

2017年10月1日に着任いたしました。専門分野は比較言語学、外国語学習、外国語教育、CLIL（内容言語統合型学習）、EMI（英語による科目教育）です。また、3、4年前から批判的思考能力についても共同研究を行ってきました。鹿児島大学では主に1、2年生の共通教育科目としての英語を担当します。英語能力は勿論のこと、今まで研究してきた教育方法、批判的思考能力などを導入しながら、学生が生涯使えるスキルを身に着けるお手伝いをしていきたいです。また、本学の教育改革にも貢献できるように尽力する所存です。

**原 隆幸（共通教育センター外国語教育部門 准教授）**

鹿児島大学に赴任して6年が経ちました。共通教育センターおよび外国語教育部門における様々な業務を中心に、共通教育の英語科目を担当しています。4技能を統合した英語力を伸ばせる授業を心がけると同時に、グローバル化する社会で生きていくために必要な知識などを、英語の授業を通して伝えています。また、総合教育機構では、英語教育以外の業務にも携わっています。引き続き教職員の皆様のご助言を仰ぎながら、これまで得てきた知見を生かしつつ、鹿児島大学の外国語教育と共通教育センター、および総合教育機構に貢献していきたいと思っています。

**村山 陽平（共通教育センター外国語教育部門 准教授）**

2017年4月から共通教育センターの一員となりました。主に1、2年生向けの英語科目を担当しています。調査や研究では、初等、中等、高等教育での英語教育について、現場での調査、実践を踏まえた検証を行なっています。これらから得られた結果も活かし、鹿児島大学での英語教育の充実や運営に貢献できればと思います。鹿児島生まれ熊本育ちで、イギリスと青森でも数年暮らし、仕事での所属先もこの10年で4つ目となりました。おかげさまで、馴染みのない環境でもどうにかやっていける自信ができました。どうぞよろしくお願い致します。

**藏本 真衣（共通教育センター外国語教育部門 講師）**

鹿児島大学の共通教育の英語を担当しています。着任して3年目になりますが、多くの方々の支えて授業と研究活動ができる環境に感謝しています。特に関心のある分野は、英語で授業を行い、CLIL（内容言語統合型学習）に基づく様々なレベルの学生に応じた英語教育です。また、初等教育及び小中高大との連携した英語教育に関心があり、教員養成の分野にも携わりたいと考えています。学生さん一人ひとりの未来に役立つような英語教育に力を注ぎ、鹿児島大学に少しでも貢献できたらと願っております。

**寺西 光輝（共通教育センター外国語教育部門 講師）**

共通教育の中国語や異文化理解入門を通して、グローバル化社会に対応できる人材の育成に貢献できるよう、取り組んでいます。今後、2017年度後期に開設した中国語ラウンジも活用して、鹿児島大学に100名ほど在学している中国人留学生と、中国語や中国文化を学ぶ日本人学生との

交流の機会を提供するなど、大学内に日本人学生と留学生が関わり合いつつ学んでいけるような、環境を作っていければと考えています。

#### ニコライ・ギュレメトヴ（共通教育センター外国語教育部門 講師）

ブルガリア出身で2007年の文部科学省奨学生として来日しました。2008年から鹿児島大学法文学部へ入学し、本学の人文社会科学研究科の博士後期課程に在学中です。前期課程では英語・英米文学に関する研究を行い、現在では地域文化政策について研究をしています。2017年10月より共通教育センターに赴任し、英語科目を担当しています。

以前担当していたインテンシブイングリッシュコースや TOEFL コース、英語によるグローバル人材育成などの教育経験を活かして、本学の英語教育の向上に貢献していきたいと思っています。

#### 二村 淳子（共通教育センター外国語教育部門 講師）

比較文学比較文化研究者です。国際日本文化センター（大学共同利用機関法人 人間文化研究機構）の共同研究員もしております。研究対象にしているのは、フランスと東アジアの近代文化、文化交流史、異文化コミュニケーションです。7月に、アジア近代美術における最も有名な画家のひとりとしてみなされている常玉の画集『常玉 SANYU 1895-1966 モンパルナスの華人画家』を監修しました。夫はフランス人、娘は franco-japonaise で、家庭では仏語が第一言語です。

#### 日高 佑郁（共通教育センター外国語教育部門 助教）

2016年に鹿児島大学に赴任し、共通教育の英語の授業を担当して3年目になります。学生の英語運用能力の向上と学習ストラテジーの習得に加え、社会への関心や問題解決能力を養うことのできる授業を目指しています。専門分野は英語教育学で、特に効果的な語彙の学習方法やリスニングの学習方法に関心があります。グローバルに活躍することを目指す鹿児島大学の学生を精一杯サポートしていきたいと思っています。

#### 石走 知子（共通教育センター体育・健康教育部門 准教授）

鹿児島大学で働かせていただき16年目になりました。専門は保健学で看護や助産、学校保健といった、人間の生涯を通じた健康にかかわる教育、研究を行っています。

近年では、鹿児島県や鹿児島市、教育委員会といった地域からの要請に応じた健康教育活動を、時に学生と取り組むことで、地域ニーズと健康教育の最新知見との融合を図り、教育、研究の視野を拡げさせて頂いています。今後とも地域に貢献し、学生を大切にできる教員として、鹿児島大学で精進して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 安田 和義（学生部共通教育課長）

共通教育センターの事務スタッフは、課長1名、課長代理1名、総務係5名、共通教育係8名、臨時用務員1名の総勢16名で共通教育に関する諸業務を担当しています。

3カ年計画でスタートした「共通教育改革」も今年で最終年を迎える節目の年となりました。今後も事務スタッフ一同は共通教育の充実・発展に寄与するため、それぞれの役割で仕事に取り組んでまいりますので、引き続き皆様方のご支援のほどよろしくお願い申し上げます。